

オアシス新聞

第3号

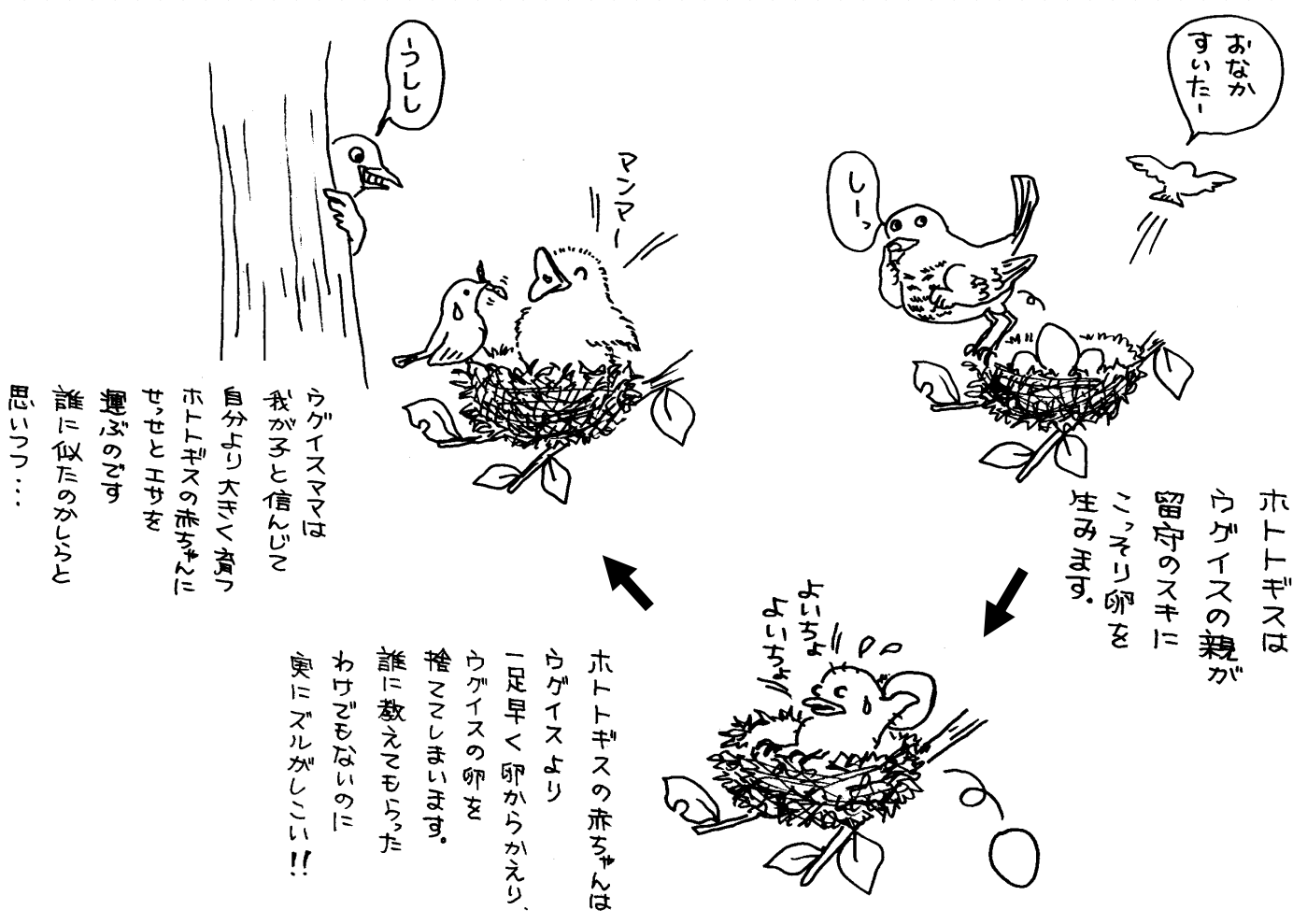
ホトトギス 鳴かぬなつていつするの?

5月5日の立夏から、暦のうえでは夏となります。薄い和紙を貼り付けたような春の空から、澄み切った抜けるような青空へと、次第に移り変わってゆきます。

「目に青葉 山ホトトギス 初カツオ」と詠われるように、夏の到来を知らせる鳥としてホトトギスがいますが、ここ小雀公園でもその姿が観測されています。キョッキョッキョッキョッキョという鳴き声は「テッペンカケタカ」や「特許許可局」とも聞こえます。また夜に鳴く鳥として珍重され、初鳴きを誰よりも早く聞くために、夜通し待つ姿が枕草子にも描かれています。

ホトトギスはインドや中国で越冬し、ウグイスが繁殖をする5月頃に日本へ渡ってきます。なぜウグイスの繁殖期に合わせるかというと、ホトトギスは自分で子育てをせず、ウグイスに托卵(たくらん)するからなのです。他人に子育てをさせるなんてスルいなあと思われますが、他の鳥と比べて体温変化が大きく、孵化をさせるのが難しいため、自分では卵を温めないという理由も一説にはあるようです。

日本に現存する最古の万葉集の中でも詠まれていたり、先に用いた「目に青葉・・・」の川柳のように、ホトトギスは古来より親しまれている鳥ですが、もっとも有名なホトトギスを用いた川柳は、三人の天下人の性格を後世の人が表した「なかめなら 殺してしまへ 時鳥(ホトトギス)」「織田信長短気(ウグイス)」「鳴かずとも なかして見せら 杜鵑(ホトトギス)」「豊臣秀吉 策士(カケタカ)」「なかめなら 鳴まで待た 郭公(ホトトギス)」「徳川家康 忍耐」というのがよく知られています。さてあなたはどのタイプ??



ウグイスママが我が子と信じて自分より大きくなるとホトトギスの赤ちゃまを産みます。

ホトトギスの赤ちゃまはウグイスママ一足早く卵がうがえりウグイスの卵を捨てるので、誰にも教えないでかわそめなこの子に産み落とされて!!